

# 平成30年度全道ホームヘルプサービス研究大会 開催要綱

主催：北海道ホームヘルプサービス協議会 / 後援：北海道（予定）

- 趣 旨
 

人材不足が深刻化する中、団塊の世代が75歳以上となる2025年に向けて、今後の訪問介護業界を考える上で、EPA（経済連携協定）により海外からの人材受け入れについても考えなければならない時代がすぐそこまでやっています。

そこで本研修では、海外の訪問介護の実態と利用者に関わる精神的なフォローや多職種との連携、自立支援について考えるとともに、ホームヘルプサービスに必要な技術と知識の向上を図ることを目的に開催します。
- と き
 

平成30年7月17日（火） 13:10～17:00（受付12:20）  
平成30年7月18日（水） 9:15～11:50
- と ころ
 

北海道自治労会館 4階ホール他  
（札幌市北区北6条西7丁目5-3 TEL：011-747-1457）
- 参加定員
 

150名  
※申し込み多数の場合は、ホームヘルプサービス協議会会員を優先させていただきます。
- 参加費
 

・北海道ホームヘルプサービス協議会会員・準会員 3,000円  
・上記以外の方 6,000円  
※参加費は当日受付でお支払い願います。
- 日 程

|                |       |        |        |       |        |       |        |              |       |
|----------------|-------|--------|--------|-------|--------|-------|--------|--------------|-------|
|                | 12:20 | 13:10  | 13:20  | 13:50 | 15:20  | 15:30 | 17:00  | 17:10        | 18:00 |
| 7月17日<br>(1日目) | 受付    | 開<br>会 | 説<br>明 | 講演①   | 休<br>憩 | 講演②   | 休<br>憩 | 総会<br>(会員のみ) |       |
|                | 9:15  | 11:45  | 11:50  |       |        |       |        |              |       |
| 18日<br>(2日目)   | 分科会   | 閉<br>会 |        |       |        |       |        |              |       |

## 7 内 容 [1日目：7月17日（火）]

|                              |  |
|------------------------------|--|
| 13:10～13:20                  | (1) 開 会 (10分)<br>開会挨拶 北海道ホームヘルプサービス協議会 会長  |
| 13:20～<br>13:50<br><br>【30分】 | (2) 説明「訪問介護事業所でのICT機器導入の背景～調査結果から見たもの」<br>北海道ホームヘルプサービス協議会では、昨年度、訪問介護事業所の現状及びICT機器導入における事業所への影響を調査しました。その調査結果から見てきた北海道における訪問介護事業所の経営状況や課題について報告します。<br>講 師：山崎 加代子 氏<br>(株式会社シムス 専務取締役/北海道ホームヘルプサービス協議会 制度推進委員会委員長) |
| 13:50～<br>15:20<br><br>【90分】 | (3) 講演「海外人材の受け入れと訪問介護の実態」<br>①「海外人材の受け入れ実態と課題：日本とドイツの比較から」<br>いち早く、外国人の介護人材を受け入れているドイツの実態を参考にグローバルな視点から訪問介護の制度と実情、多様な人材に焦点を当て、日本の課題について報告する。<br>講 師：安里 和晃 氏 (京都大学大学院 文学研究科文化越境専攻 准教授)                              |
| 15:30～<br>17:00<br><br>【90分】 | ②「海外ヘルパーの同行訪問で見えてきたもの」<br>海外でのホームヘルプ活動に同行した経験から、実際に日本で取り組む際の課題や実現可能性について、また、訪問介護事業所として、外国人介護福祉士を受け入れるため、にどのような検討・準備が必要なのかお話しいただきます。<br>講 師：大崎 千秋 氏 (名古屋柳城短期大学 専攻科介護福祉専攻 准教授)                                       |

### 【講師紹介】

安里 和晃(あさと わこう)氏

龍谷大学後期博士課程修了(経済学博士)。主たる研究領域は、看護・介護・家事・結婚移民を含む少子高齢化が及ぼす人の国際移動や社会統合で、対象地域は東アジア、東南アジア、湾岸諸国に及ぶ。また高齢化の進展により介護概念がどう生成するかについても、アジア諸国をめぐりながら考察。フィリピン政府在外フィリピン人委員会、フィリピンのNGO、京都市内の小中学校などと連携したフィリピン系移民に対する支援を実施し、2014年フィリピン大統領賞受賞。主な著書は、『国際移動と親密圏』、『労働鎖国ニッポンの崩壊』他。

大崎 千秋(おおさき ちあき)氏

放送大学(生活と福祉専攻)卒業。専門分野は、高齢者・障がい者福祉・介護。研究分野は、高齢者介護(在宅介護、介護福祉士、ホームヘルパー)。日本認知症ケア学会(評議員、国際活動副委員長)、日本介護福祉学会(評議員)、日本介護学会として活躍。主な著書は、『訪問介護マニュアル』(監修)、『新人に教えるべき支援経過記録の基礎・書き方のポイント』、『介護実習・介護実習総合演習』他。

[2日目: 7月18日(水)]

(4) 分科会 (9:15~11:45) 【150分】

|       |  |
|-------|--|
| 第1分科会 | <b>講義・演習「メンタルフォロー～精神面からケアするためには」</b><br>障がい等がある利用者の家族の中には、悩みを抱え込むケースも少なくありません。そのため、ヘルパーにとって、利用者に関わる精神的なフォローも大事なケアのひとつです。<br>そこで本分科会では、統合失調症をはじめ、うつ病などの精神疾患、高次脳機能障害、ひきこもりなどの社会的な適応の問題について、どのように寄り添っていきべきか考えます。<br>講師: 三上 雅幸 氏 (公益財団法人北海道精神保健推進協会 こころのリカバリー総合支援センター)   |
| 第2分科会 | <b>講義・演習「訪問介護とリハビリの連携」</b><br>利用者の在宅での生活機能向上を図るために導入された生活機能向上連携加算について、訪問・通所でのリハビリテーションを踏まえ、在宅における利用者の日常生活動作へとつなげていく視点や生活機能改善の視点などをアセスメントや訪問介護計画につなげて行けるように学びます。<br>また、リハビリテーション専門職と共通言語で話ができることでヘルパーの連携方法などを学ぶとともに、会場からの質疑応答等を通して、介護とリハビリの連携について考えます。<br>講師: 千葉 恒 氏 (社会福祉法人北海道社会事業協会 介護老人保健施設ふらの<br>リハビリテーション科 科長) |
| 第3分科会 | <b>講義・演習「訪問介護計画書の見直しとその根拠～利用者の変化に合わせてアセスメントを取り直そう」</b><br>訪問介護の基礎である老計10号を基に、自立支援とは何か考えるとともに、自身のケアの在り方について根拠を持って考えます。<br>また、利用者の状況の変化に応じて、サービス内容も常に検討することが必要となります。演習では、根拠を持ってサービス提供を行うためにはどうすべきか事例検討を通して考えます。<br>講師: 佐々木 薫 (社会福祉法人刀圭会 ヘルパーステーション向日葵 管理者<br>/北海道ホームヘルプサービス協議会 会長)                                   |

(5) 閉会 (11:45~11:50) 分科会ごとに閉会

### 8 その他

1日目のプログラムの「説明」終了後、平成30年度北海道ホームヘルプサービス協議会代議員総会を開催します。なお、総会につきましては、別途会員事業所あてに御案内します。

### 9 参加申込みについて

別添<参加申込書兼アンケート>に必要事項を御記入の上、**平成30年7月11日(水)【必着】**までに下記あてに、FAXにてお申し込みください。(尚、定員になり次第締め切りとさせていただきます。参加をお断りする場合もしくは希望の分科会を変更して頂く必要がある場合のみ、お電話等にて御連絡いたしますので、予め御了承ください。)

北海道ホームヘルプサービス協議会 事務局

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地 かでの2. 7 2階  
北海道社会福祉協議会・地域福祉部地域福祉課内 (担当: 寺井・野口)  
Tel 011-241-3977 Fax 011-271-3956